

乳腺検査

マンモグラフィと乳腺超音波検査の併用で
早期発見と見逃しを減らす、総合的な乳腺検査

当院の乳腺検査は、マンモグラフィと超音波検査を併用し、それぞれの検査の特性を活かした乳腺検査を行っています。

併用することにより、早期がんの発見や、見逃しのリスクを減らす効果が期待されています。

※マンモグラフィは、視触診だけでは発見しにくい小さな腫瘍や石灰化を見つけることができるため、早期の乳がんの発見率を高める大変有益な検査です。

※超音波検査は、腫瘍(しこり)を見つけやすく、しこりの性状を詳しく観察することができます。



Canon社製
Applio i800



SIEMENS社製
MAMMMOMAT Inspiration

乳腺検査は、月曜日・火曜日・水曜日に実施しております

特色① 精度管理されたマンモグラフィを使用

当院では、精度の高い画像を提供するため、日本医学放射線学会の定める使用基準に適合した専用の装置を使用しております。

また、日本乳がん検診制度管理中央機構のマンモグラフィ検診認定技師を含めた技師が、装置の日常的な品質管理を徹底しています。

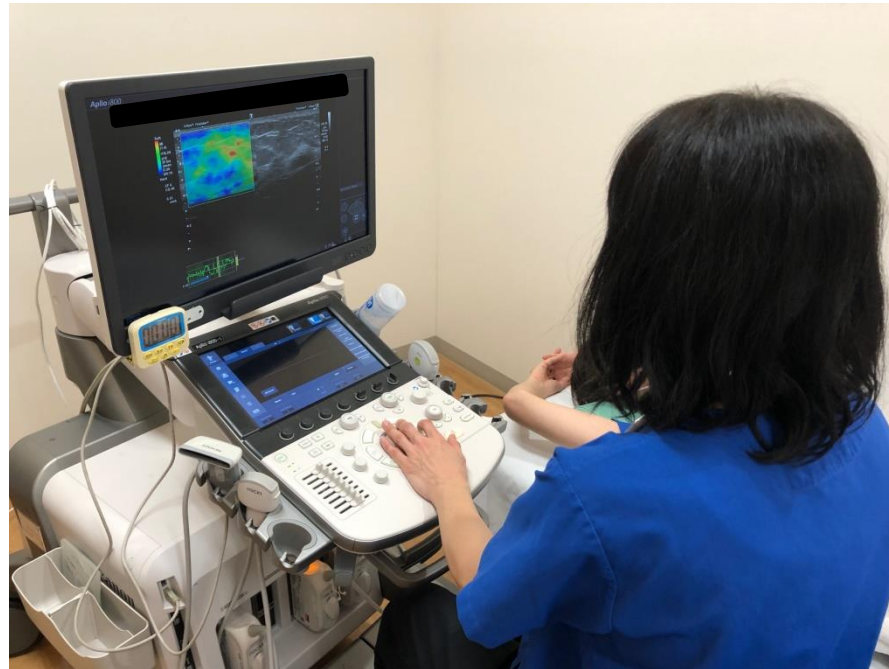
適切な撮影条件と安定した画質を維持することで、わずかな変化も見逃さない、信頼性の高い検査を提供しています。



特色② 検査はすべて女性技師が担当

当院は、マンモグラフィ検査・乳腺超音波検査は、経験を積んだ女性診療放射線技師と検査技師が担当しています。

検査時の不安や緊張に配慮し、プライバシーを大切にしたい、きめ細やかな対応を心がけています。初めての方も、安心してご相談ください。



特色③ マンモトーム生検に対応

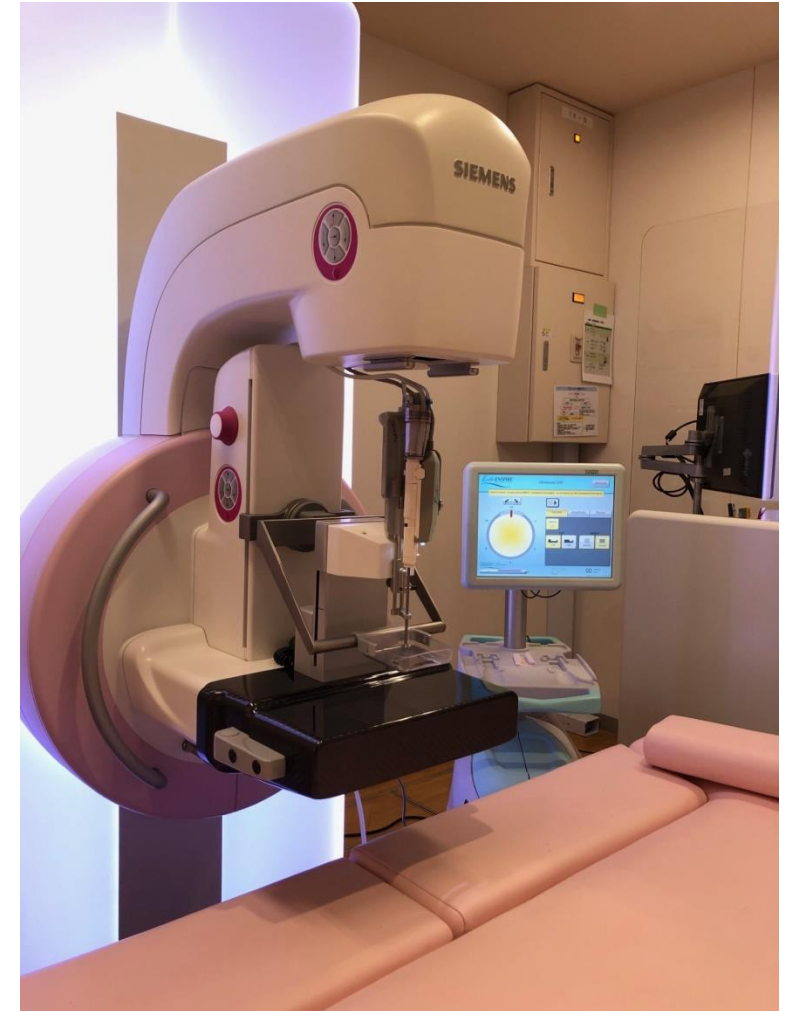
当院は、マンモトーム生検(吸引式乳房組織生検)を行っています。

小さな病変や石灰化病変に対しても、より正確な組織診断が可能で、外科手術を行わずに診断できることが特徴です。

必要に応じて、迅速かつ適正な精密検査をご案内しています。

※マンモトームは木曜日の午前中に行われています。

腫瘍の場所によっては、マンモトームが不適應な場合もございます。



マンモグラフィ検査の注意事項

① 下記の体内挿入物がある方は、マンモグラフィ検査を受ける事により、挿入物の破損の危険性があります。

マンモグラフィ撮影は、超音波では見えない石灰化病変を見つける事が可能になるといったメリットもありますが、体内挿入物により、通常の圧迫が出来ないため、異常所見を見落とす可能性があります。

- ・ 心臓ペースメーカー、ICDを装着している。
- ・ 前胸部に薬液注入用の皮下埋め込み型ポート(CVポート)を埋め込んでいる。
- ・ 脳室・腹腔連絡術(V-Pシャントカテーテル留置術)を受けている
- ・ 豊胸術(シリコン注入・シリコンパック・生食パック・ヒアルロン酸注入・脂肪注入等)を受けたことがある。

これらの機器を挿入している場合、マンモグラフィ撮影が可能かどうか、挿入・管理している主治医・病院と相談して頂くようお願いします。

② 妊娠中・妊娠の可能性のある方

マンモグラフィの検査での被曝量は、乳房の厚さにもよりますが、写真1枚2mGy以下で撮影し、当院では計4枚撮影予定のため、合計8mGy以下です。妊娠初期の被ばくによる流産や胎児奇形のおそれが出てくる線量は100mGy以上のため、殆ど影響のないと考えられ、マンモグラフィを撮った後に妊娠が分かっても影響ないと考えられています。しかし、被ばくによる胎児の影響が0とはいえません。また、妊娠中・授乳中の乳房は、乳腺が発達し、マンモグラフィを撮影しても、病気が隠れてしまい、発見できない可能性もあります。更に、乳房圧迫により、刺激による子宮収縮を引き起こす指摘もされています。

③ リブレは、撮影前に外して頂きます

撮影範囲にありませんが、機械の誤作動の可能性もある為、装着している場合は、予約の際に、外すタイミングの日程をお申し付け下さい。

④ 検査当日、制汗剤・パウダーは付けないで下さい

がんのサインである石灰化と似ているため、不要な再検査・必要以上の被ばくを避けるためにも、ご注意下さい。